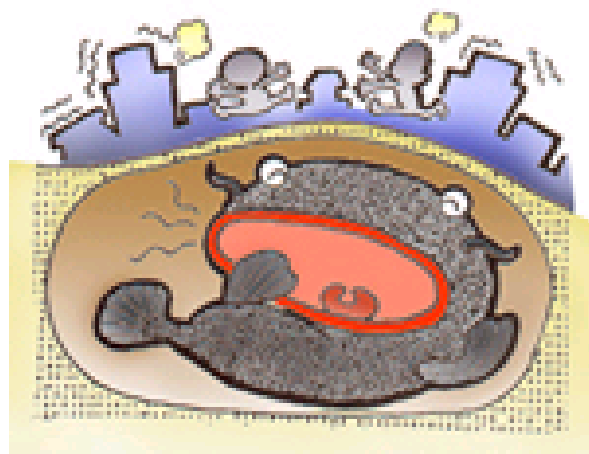


電文送受信（FM）の手引き



横須賀市アマチュア無線局非常通信連絡実行協議会

2018年2月4日 改訂
2018年12月17日 改訂

電文は「正確」「速やか」に送受信する事が求められます
日頃から通信技術を磨き対応出来るようにしておきましょう

『ポイント』

【送信側】

- 電文送信の依頼を受けたら内容・相手方を確認する
- 受信側が書き留める事を配慮しゆっくり送信する。語句・文面上区切りのいい箇所、重要度の高い固有名詞等ではPTTをONのまま通報を一区切りし、間隔を開ける事
- 電文を読み上げる前に「本文」を前置する
- 電文読み上げが終了したら「本文終わり」で終了する
- 依頼電文に送信日時・コールサイン・送信者サインを記入して保管する
- 長文を送信する時は分割し、各送信内容が書き留められたかを確認する
- 氏名・病名・薬品名など間違い（聞き違い）易い文章は、和文通話表・フォネティックコードを用い送信する
 - ※ 非常時は送信前に「非常」を3回前置する事
 - ※ 訓練時は送信前に「訓練」を3回前置する事

【受信側】

- 通信用紙を用いひらがな・漢字で書き留める。カタカナ・数字・欧文はその場の判断で記録する
- 電文をすべて受信出来たら「了解しました」を送信し再度読み上げる必要はない
- 内容が不明瞭な時は再送を求めるが、一部不明瞭な時は〇〇以降〇〇までと指定し、全文再送してもらう必要はない
- 句読点まで確実な記録は不要。通報の内容が確実に記録出来ればよい
- 時間があれば清書する
- 受信電文は市役所担当者に伝達する

【送信例】 2013医師会訓練電文を一部引用。（送り方の注釈として V および _____ を付記）

- ※ V =書き留める事を考慮し間を開ける
- ※ _____ =適宜和文通話表を用いる

《例文 1》

救護所は、V 電気・水道・ガスの V 使用不可です。V 建物の損傷は V ありませんので、V これから救護所を V 立ち上げます。

☆ 平文でゆっくり送信

《例文 2》

地域医療救護所に V 医療スタッフが V 到着し、V 準備が V 完了しました。V 負傷者が V 来次第、V トリアージを V 開始し V 治療を行います。V 広報お願いします。

此处で今までの電文が受信出来たか一度確認する

到着した V 医師は、V 横須賀市民病院 V 鈴木医師、V 自衛隊横須賀病院 V 斉藤医師

☆ 平文でゆっくり送信

《例文 3》

武山市民プラザ V 地域医療救護所で V 医薬品が V 不足しています。 V
キシロカイン V 注射液 V 1% V 50本の V 補充お願いします。 V

☆ 薬品名は和文通話表を用い送信する

《例文 4》

武山市民プラザ V 地域医療救護所で V 搬送患者 V 発生。
搬送手配 V お願いします。 V

患者氏名 V 鈴木花子 V 55歳 V 女性

病名 V 気道熱傷 V 血圧 V 86/50

☆ 氏名・病名は和文通話表を用い送信する

※ 送信局は非常通信が終了したら総務省宛報告書を作成する

以上